



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol.57
2026.8.1

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

「備えあれば憂いなし」

災害歯科医療学 教授
相羽 寿史



このたび令和8年4月1日付で日本歯科大学新潟生命歯学部の新設された災害歯科医療学の教授として就任しました相羽寿史と申します。前職は陸上自衛官(歯科医官)として30年間自衛隊に勤務してまいりました。これまで陸上自衛隊では診療部門の病院勤務だけでなく、野外で活動する衛生隊の指揮官、衛生科隊員を育成する教育機関の陸上自衛隊衛生学校教官、そして陸上自衛隊の行政機関である陸上幕僚監部に勤務し、一般の歯科医師とは異なる経験をしてまいりました。主な派遣としては、有珠山噴火に伴う災害派遣、東日本大震災では歯科的見地からの身元確認支援、また自衛隊における国際緊急援助活動に係る医療及び輸送に関する技量の向上を図ることを目的としたパシフィック・パートナーシップ2013ではパプアニューギニア独立国に派遣され歯科保健活動も行いました。自衛官が即応体勢を維持し過酷な環境において活動するためには、日頃からの健康管理が大変重要です。その中でもお口の健康は最大限の力を発揮するうえで大変重要な要素となるため、個人の口腔ケアを日頃から適切に行うことが大切であると集団教育を通じて健康管理指導を行ってきました。口腔ケアは一般の方々の健康管理においても大切なことであり、特に災害時における誤嚥性肺炎予防の一助となります。最近の災害は、東日本大震災のように地震、津波、そして原子力発電所事故、本年も6月には地震とダブル台風が発生し複合型の災害となりうる傾向にあり、あらゆる想定に対する備えが必要となります。過去の災害の経験から防災として「自助・共助・公助」の「三助」が円滑に連携されることが大切です。そのためには、日頃から皆様と顔の見える関係を構築することが災害時の対応として不可欠です。これまでの陸上自衛隊での経験を活かして皆様と共に地域防災においてお役に立てればと思います。



口腔インプラント科における 広範囲顎骨支持型装置

●口腔インプラント科
教授

廣安 一彦



●口腔インプラント科

松田 雅嗣



◆はじめに

口腔インプラント科では、歯の欠損に対するデンタルインプラント治療を主に診療を行っています。顎骨の吸収が著しい場合は骨造成術を行うほか、インプラント周囲炎や外科的・補綴的なトラブルにも対応しています。

歯を失う原因は多岐に渡りますが、腫瘍による顎骨切除や先天性の多数歯欠損に対しては保険適応となる広範囲顎骨支持型装置での補綴治療が認可されています。

◆広範囲顎骨支持型装置について

広範囲顎骨支持型装置とは、保険収載されているデンタルインプラントを用いた治療です。通常のデンタルインプラントは保険外診療（自費）となりますが、特別な基準を満たす場合は、保険適応となる場合があります。また、この治療を行うためには施設基準を満たす必要があり、当院ではこの基準を満たしています。

対象患者	
腫瘍や外傷による欠損	● 腫瘍や顎骨骨髓炎などの手術による広範囲な顎骨欠損 ● 事故や外傷による広範囲な顎骨欠損
生まれつき要因・先天性	● 6歯以上の先天性部分無歯症又は3歯以上の前歯永久歯萌出不全 ● 連続した3歯以上の先天性欠如歯に起因した咬合異常

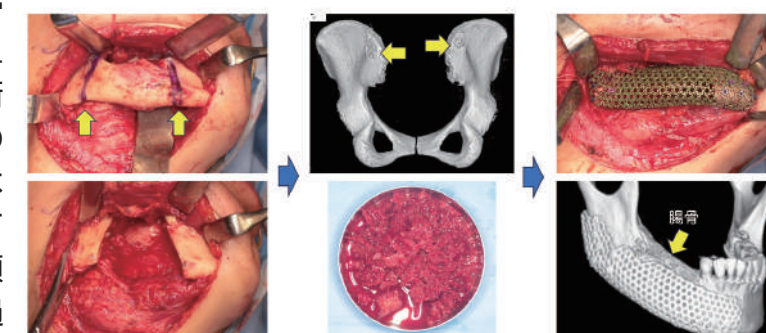
施設基準	
人員要件	● 歯科又は歯科口腔外科の5年以上の経験及びインプラント手術等の3年以上の経験 ● 上記を満たす常勤の歯科医師2名以上
施設要件	● 病院であること（診療所は対象外） ● 当直体制が整備されていること
体制・設備要件	● 医療機器の保守管理、医薬品の安全確保体制 ● 手術に必要な検査機器の設置

◆症例紹介

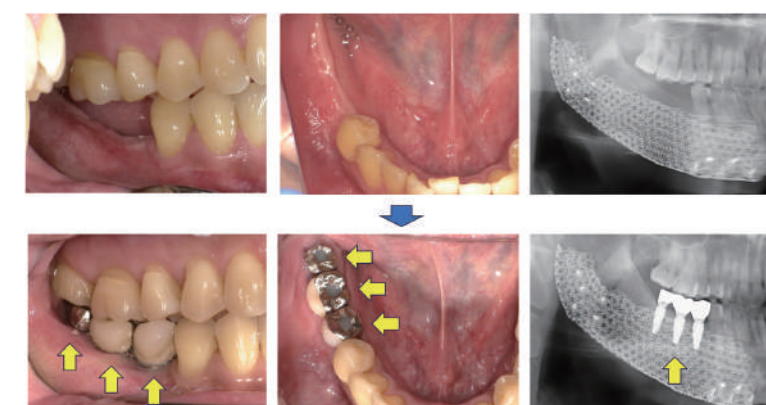
ここで当科での症例を供覧致します。症例は42歳の女性です。近医より右側下顎骨の精査依頼で当院口腔外科に紹介となりました。組織検査の結果、セメント質骨形成線維腫と診断され、下顎骨区域切除および腸骨海綿骨の移植とチタンメッシュプレートを使用した顎骨再建術を施行しました(図1、2)。その後、広範囲顎骨支持型装置による補綴治療を希望され当科にて治療を施行しました。広範囲顎骨支持型装置装着から2年経過した現在でも、腫瘍の再発なく、良好に機能しています(図3)。



●図1: 術前の口腔内と画像所見
術前口腔内 病理診断: セメント質骨形成線維腫



●図2: 手術所見
下顎骨区域切除術 腸骨採取 プレート再建+腸骨移植



●図3: 広範囲顎骨支持型装置による補綴治療前後の比較
顎骨支持型補綴装置埋入(3本)

◆最後に

広範囲顎骨支持型装置は保険適応条件が限られていることに加え、欠損範囲が広く外科的・補綴的処置に難渋する症例が多いです。当科では他科との連携も行いながら包括的に治療を行っております。もしお困りの症例がございましたら遠慮なく紹介して頂ければ幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。



睡眠歯科センターにおける 診療と治療について

●睡眠歯科センター長
総合診療科 教授
猪子 芳美



◆はじめに

日本歯科大学新潟病院睡眠歯科センターは、睡眠中にいびき、呼吸の停止などがみられる閉塞性睡眠時無呼吸(Obstructive Sleep Apnea: OSA)の患者の診療、検査、治療を行っています。OSAは、睡眠中に気道の狭窄または閉塞から無呼吸や低呼吸を頻発する疾患で、過度の眠気を引き起こし、交通事故率を増加させます。また、高血圧症、心筋梗塞、脳梗塞、糖尿病などの合併症を引き起こし、生命予後に大きく影響する病気です。欧米ではOSA患者の多くを肥満者が占めておりますが、日本人を含む東アジア人は、欧米人に比べて肥満人口が少ないにもかかわらずOSAの有病率は欧米人とほぼ同じです。東アジア人は、顎顔面形態の特徴に小顎や下顎の後退を有するため、非肥満であってもOSAを引き起こすと言われています。

◆初診時の診察

(1)問診

OSAの主症状であるいびき・無呼吸は睡眠中に生じますが、自覚症状の少ない患者が多いです。したがって患者または患者の家族から聞き取りを行います。聞き取り内容は次の通りです。①受診の動機、②睡眠時間、③既往歴と服用薬剤、④血圧、⑤体重の変化、⑥職種、⑦いびきや無呼吸の指摘・自覚症状、⑧寝つき・寝起き・熟睡感、⑨歯ぎしり、⑩夜間排尿頻度、⑪飲酒、⑫喫煙、⑬日中眠気、疲労感などです。

(2)口腔内・口腔外の診査

OSAの2大原因は、肥満および小顎または下顎後退です。口腔外そして口腔内の診査は必須です(図1、2)。



●図1



●図2

(3)頭部のレントゲン撮影

正面と側面のレントゲン撮影を行います。正面のレントゲン写真では、鼻閉の原因があるかどうかを、側面のレントゲン写真では気道の状態などを診査します(図3、4)。



●図3



●図4

◆睡眠ポリグラフ検査

OSAの検査には睡眠ポリグラフ検査(PSG)が必要です。脳波、心電図、呼吸の状態などの装置を全身に装着し、午後9時から翌日の6時まで計測します。当センターは、2023年12月にPSG検査機器を新たなものとしました。新しい検査機器は、以前のようにベッドに拘束されることなく、自由に動けて歩けるようになっています。

◆OSAの治療

(1)口腔内装置治療

PSG検査で無呼吸低呼吸指数(AHI)が1時間あたり5回から15回の患者が対象となります。上下顎の歯型を取り、作製します。睡眠歯科センターの歯科医師が担当しています(図5)。



●図5

(2)持続気道陽圧呼吸(CPAP)療法

PSG検査でAHIが1時間あたり15回以上の患者が対象となります。睡眠中に持続的に空気を送り込み、気道を陽圧に保つことで気道閉塞を防ぐ治療法です(図6)。新潟病院医科部門の医師が担当しています。また、重度のOSAを有する患者でCPAP治療継続が困難な症例に対しては、CPAP使用時に口腔内装置を同時に併用することによって治療効果をあげております。一方、CPAP治療継続不可の症例では、口腔内装置装着によって治療効果の得られたケースを多く経験しています。

睡眠歯科センターは、安心・安全で良質な睡眠医療を提供するために日々精進して参ります。今後とも睡眠歯科センターをよろしくお願い致します。



●図6



■ 第1回にいがた口腔ケアフォーラム2026 ■ 第21回新潟口腔ケア研究会 併催のお知らせ



大会テーマ：「多職種協働で切り拓く にいがた口腔ケアの新未来」

会期：令和8年9月6日（日）13:00～16:50

会場：日本歯科大学新潟生命歯学部 講堂（〒950-8581 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8）

大会長：田中 彰 日本歯科大学新潟生命歯学部口腔外科学講座 教授

参加費：2,000円（学生無料：当日参加のみ）※学生はWeb申込不要

【特別講演】山浦克典先生 慶應義塾大学薬学部 医療薬学・社会連携センター 社会薬学部門 教授
「薬局の機能を活かして薬剤師が取り組む口腔ケアの推進と地域住民の健康増進」

【教育講演1】高橋圭三先生 日本歯科大学新潟生命歯学部 耳鼻咽喉科学 講師 言語聴覚士
「言語聴覚士と歯科連携、口腔ケアの現状と未来について」

【教育講演2】近藤さつき先生 認定ケア栄養ケアステーション 向日葵 代表 管理栄養士
日本歯科大学新潟生命歯学部 訪問歯科口腔ケア科 臨床講師
「管理栄養士と歯科連携—口腔ケアの現状と未来—」

会場参加のチケット購入はURLまたはQRコードからお願いします。

<http://niigata-oralcare2026.peatix.com>

QRコードは株式会社アンソウウェブの登録商標です。



■ 地域医療連携室よりお知らせ—お盆期間中の休診のお知らせ—

令和8年8月12日（水）～令和7年8月16日（日）まで休診となります。

8月17日（月）より通常通りの診療となります。

また休診中のFAXによる受診予約依頼につきましては、8月17日（月）の返信となります。ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室

TEL／025-211-8228(歯科)
025-211-8257(医科)
FAX／025-267-1546



地域医療連携室
室長／小根山隆浩
看護師／神田 明
MSW／瀧澤 侑加
事務／本間 未来

編集
後記

■ 今年もあっという間に半年が過ぎ、暑い夏がやってきました。すでに災害級の猛暑(酷暑)と言っても良いかもしれません。巻頭言にもありますように「備えあれば憂なし」だと思いますので、皆様も熱中症などに十分ご留意いただければと思います。暑い夏を乗り切りましょう。

今回は、新たに開設した災害歯科医療学のご紹介、口腔インプラント科における広範囲顎骨支持型装置による治療、睡眠歯科センターでの睡眠時無呼吸症候群に対する診断と治療を特集いたしましたので、ご確認いただければと思います。今後とも宜しく願い申し上げます。(小根山)



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER



発行日／令和8年8月1日 発行人／戸谷 収二

〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8

TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(連携室直通)